



その費用と負担をめぐる③

③



低すぎる国の建設基準単価

先号で少し「超過負担」についてふれましたが、今号は今年の建設を例にとつて、もう少しくわしく「超過負担」について説明してみよう。

国が補助金を算定する際の基礎となる建築単価も毎年改定されてきてはいますが、表1で見ると、鉄筋コンクリート造りでは、一平方メートル当たり九万五千円でした。しかし、実際には十一万二千七百円近くかかっていますから、一平方メートルについて二万一千円余りの差があります。これが単価差といわれるものです。

また、国の基準では、幼児一人当たりの建築面積を五・

表1 荻川保育所建設費・基準単価の比較(昭和51年)

建築面積(㎡)	657.5		
建設費(千円)	73,400		
財源内訳	国庫負担額(千円)	31,665	
	%	43.14	
	県費負担額(千円)	15,832	
	%	21.56	
市費負担額(千円)		25,903	
	%	35.29	
	単価	(A) 5.80	
	国庫基準	(B) 90.50	
建設単価	単価	(C) 5.97	
	国庫基準	(D) 111,689	
	比較	A/C %	97.15
		B/D %	81.02

八平方メートルとしていますが、荻川保育所定員百十名では幼児一人当たり五・九七平方メートルで、わずかばかりですが、数量差というものもあります。

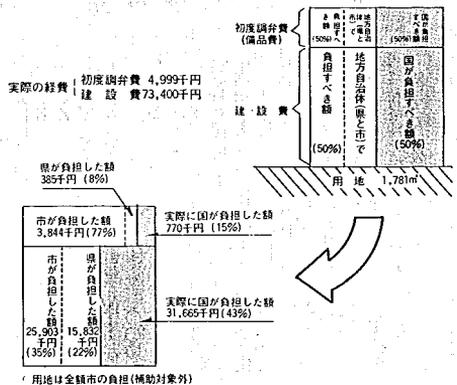
結局、建設費は七千三百四十万円かかったのですが、国が五〇%、県・市がそれぞれ二五%ずつ負担すべきところ、

実際には市が二五%余り(二千五百九十七万二千円)負担しました。

このほか、保育所としての機能を果たすためには、給食設備やオルガンなどの調度用品が当然必要です。ここには約五百万円かかりました。ここにも対象差という国の基準との差があつて、七五%余りを市で負担したかたちになっています。さらに、用地一千七百八十一平方メートルは、費は全額市で負担外で、買取費は全額市で負担しなればなりません。(図2を参照)

図2

荻川保育所建設費の超過負担



あるか補助金であるかは非常に重要な意味をもっているのです。

この市町村でも

保育所建設に国を相手に提訴した、いわゆる「撰津訴訟」に対して、昨年十二月、東京地方裁判所は「原告の請求を棄却」する判決を下しました。この判決を要約すると「市町村が任意に建設したものにに対し、しかも厚生大臣の補助金交付決定がなされていないから請求権は発生しない」というもので、いわば超過負担の有無以前の手続き論で門前払いとなつたものです。撰

津市では、市議会の議決のもとに、東京高裁に控訴して争うことになりましたが、この一審判決の内容については、ここでは深く立ち入らないこととします。

いづれにしても、国の負担金や補助金の交付については、国(県)が認めた保育所に限つて「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」によつて手続き方法が定められています。しかし、実際にかつた経費をしかけはなれた国の定める基準にもとづいて算定した額(国からの内示額)でなければ、申請も受付けません。経費や負担割合を定めた個別の根拠法令が空洞化されているのが実態です。

御婚礼着付・コールドパーマ
アメリカ生まれのカバマーク化粧品店

渡辺美容室

本町3丁目ウラ通り TEL(2)0626

全国ジンベット・チェーン店
寝具のデパート

永とんの姥山屋

本町3丁目 ☎(代表) 2-0261